



9 2023

発行所 大阪市中央区玉造2-24-22 カトリック大阪大司教区 広報委員会 郵便番号 540-0004 TEL (06) 6941-9700(代表) TEL (06) 6946-3223(直通) FAX (06) 6946-3224(直通) E-mail: jiho@osaka.catholic.jp 編集 広報委員会 発行人 前田万葉

本紙「点訳版」「音訳」があります。〈無料〉 ※ご希望の場合は下記まで申込み 「点訳版(点字本)」 時報 ☎06-6946-3223(直通) ☎06-6946-3224(直通) 「音訳(テープ・デジ)」 山口さん ☎0798-34-4228

- ☆ キャンプ特集「復活する教会活動」
 - ☆ 甲子園教会60周年・堅信式
 - ☆ ラジオ信仰の時間「ヨヴァンニテラ神父」
 - ☆ 司牧者から若者たちにこの一冊その30
 - ☆ イエスにならう生き方を求めて
 - ☆ 聞かされた、神様と出会った時のこと
 - ☆ 生きる―難民移住者
 - ☆ ヨゼフ・ベイヤ司教福岡教区講演会
- 『時報』原稿・資料等の締切は前々月です。

祈りと行動のうちに 総合的なエコロジー すべてのいのちを守るための月間

毎年夏になると、去年と比べてより激しく降って来る雨に、より熱くなるとは外で歩くことさえ臆するよいうな日差しに、私たちは戸惑っているのではないのでしょうか。

夏は暑くても、楽しく遊ばまわっていた季節という印象をおられる方も多いと思いますが、昨今の夏といったら、厳しい時期となり、大雨による災害や猛暑による熱中症など増えていへん過ごしづらくなっています。「誰がこんなためにちやくちやくにしましたか?」と抗議してきてみたり、大量生産・大量消費が定着した時から慣れたライフスタイルこそ、環境破壊や異常天候の主原因であることが分かります。ただ生産者側への規制強化をするばかりではなく、消費者達が日常生活の中で環境により優しい

エネルギーの使い方・生活汚水の削減、買い物もよりエコ的な形に変えていく、例えば、食材は旬のもの、地元産のものを選ぶ、詰め替え製品や、ばら売り・量り売りの商品を購入する等が考えられます。つまり、長距離運送による食材ではなく、一つでもゴミを少なくする商品を選ぶこと、「余計に」費やされる資源を減らすことです。しかし、これには「不便」が伴うもので、スーパーで気軽に、並んでいる商品をポンポン籠に入れることに比べて、かなりの気配りを要するもの、意識しない限り、実践に窮してしまうものです。

地球環境は全てが繋がっていて、私たちの正しい消費活動が、環境を守るための工夫が、私たちが、子どもたちの為になるのです。

皆さまのお陰で、「すべてのいのちを守るための基金」は2022年4月1日付で前年度よりの繰越金が1千3百25万8千941円で、2023年3月1日まで2百49万1千262円の献金をいただきそのうち一年間、1千4百50万円を支出し、残高は、1千4百30万203円です。

今年も9月1日、10月4日が「すべてのいのちを守るための月間」となっております。皆さまのご協力と共に、神様の贈り物である

すべてのいのちを守るための基金よりの支出内訳

ウクライナ危機支援金、カリタスジャパンへ	500,000円	兵頭博氏ウクライナ難民母子支援基金 支援金	200,000円
核なき世界基金		WCRP 2023年トルコ・シリア地震緊急支援募金	100,000円
団体・法人会員会費	100,000円	2023年トルコ・シリア地震緊急支援募金、カリタスジャパンへ	500,000円
このよりのゆりかご in 関西・特別法人会員会費	50,000円		
支出 1,450,000円 (2022年4月1日～2023年3月31)			

新教区設立と新教区長任命

8月15日バチカン時間12時(日本時間19時)に、教皇庁は以下の発表をいたしました。

教皇フランシスコは、大阪と高松の両教区を基盤として、新たに大阪高松大司教区を設立した。また、教皇フランシスコは、現大阪大司教区大司教のトマス・アクィナス前田万葉枢機卿を新大司教区の初代大司教に任命した。

*本紙5面に関連記事掲載

病者・障がい者とともに歩むミサ

9月23日(土・祝) 14時
司式：前田万葉大司教

ミサはYouTube 同時配信(手話通訳・字幕表示)
交流会はZoom 配信予定



神戸中ブロック

5月21日(日)、兵庫教会で前田万葉大司教の主司式、松永敦神父共同司式のもと堅信式が行われた。

合同堅信式は2019年6月以来、4年ぶりの開催となる。鈴蘭台教会4人、たかとり教会13人、兵庫教会4人、計21人が堅信の秘跡を受けた。

受聖者自ら共同祈願を唱え、「世界のために」「日本のために」「神戸中ブロックのために」祈りをささげた。

大司教は説教の中で「堅信の秘跡はゴールではなく、大人の

【受験者の感想】

今年の堅信式は芦屋教会の受聖者のみの堅信式となったが、大司教様を久しぶりにお迎えして、喜びのうちに式を終えることができた。受聖者は「堅信式に向けて学んできて、秘跡を受けて、大人に近づいた気持ちです」と感想を述べた。



夙川ブロック

酒井司教は、堅信とは「こどもの信者」から「大人の信者」になること。それは、「に」から「が」へ、さらに「が」から「を」へと成長していくように、すなわち、わたし「に」なにかを求めただけでなく、わたし「が」なにかを行なうようになること、さらに、わたし「を」どうぞお使い下さい、と信仰を発展させることが「大人の信者」になることだと、紙に書いた文字を示しながら、説かれた。

【受験者の感想】
本日のごミサに関わってくださったすべての皆さまに心より感謝いたします。コロナ禍ですっきりと受けることが出来なかった堅信式を、本日受けることができて、うれしい気持ちでいっぱいです。これまで堅信の勉強会などで学んできたことを心に留めてこれから生活していきたいと思っています。

4月～5月に行われた堅信式 キリストの真の証し人として 夙川ブロック・神戸中ブロック・六甲教会

4月16日(日)10時、芦屋教会で前田万葉大司教と川柳裕明神父共同司式で、6人の受聖者をはじめ110人の信徒が参列して、堅信式が行われた。

前田大司教による説教では「堅信を受けられる皆さんは、司教の按手と聖香油の塗油によって聖霊を受け、ますますキリストの姿に似る者となり、キリストの教会のより完全な一員となります。大人の信者、キリストの証し人になる」と説かれた。また、「励まし」の句として「仕合はせのキリストの香や復活祭」と他2句を披露され、「あなたがたの生活が『キリストのよい香り』となるように」そして「キリストのように、みなさんにも、聖霊の導きのもとにすべての人に仕えるよう」に努めてください」と、受聖者と会衆に向けて導きのことばを述べられた。



六甲教会

5月21日(日)、酒井俊弘補佐司教主はなぶさ 司式、英 隆一朗神父(主任司祭)共同司式で、主の昇天10時ミサの中で堅信式が行われた。

2023. 10.15 Sun 12:30 ~ 16:00

St. Mary's Cathedral 大阪カトリック聖マリア大聖堂

インターナショナル・デー INTERNATIONAL DAY 2023

～外国人が暮らしやすい社会は日本人にも暮らしやすい～
A society where foreign residents can live easily is likewise a society where Japanese people can easily live.

主催：オーストラリア大使館、オーストラリア駐大阪総領事館、オーストラリア大使館大阪支店、オーストラリア大使館大阪支店、オーストラリア大使館大阪支店、オーストラリア大使館大阪支店

大阪教区 典礼研修会

今あらためてミサを味わうために

司式者の所作の意味・奉仕者の役割・会衆の参加
～感謝の典礼を中心に～

主催：大阪教区典礼委員会

講師：パウロ 酒井俊弘 補佐司教

2023年10月29日(日曜日)
2時から4時

サクラファミリア(カトリック大阪梅田教会) 聖堂にて

事前お申込み不要・どなたでも受講できます

ここのとりのゆりかご

ボランティア in 関西 電話相談員募集

思いがけない妊娠を悩んでいる方の電話相談員を募集しています

< 応募要件 >
☆当法人主催の相談員養成講座を受講いただける方(受講料無)
☆月2回(午前・午後どちらでも可)以上担当可能な方
☆看護師・助産師・福祉士など資格経験者の方が望ましいですが、未経験の方も歓迎します

< 活動内容 >
「このとりにんしん SOS」の電話相談

< お問い合わせ >
認定NPO法人このとりのゆりかご in 関西
TEL / 078-391-5820 FAX / 050-3737-0650
MAIL / kounotori.kansai@gmail.com https://www.yurikago.site/

このとりにんしん SOS 匿名で相談 OK・非通知でもかかります 050-3033-0705

教会キャンプ復活するか？

本格的再開は来年以降になる見込み



時報編集部では、2023年の教会学校キャンプについてアンケートを実施し、19小教区から回答を得た。アンケートから読み取れるのは、新型コロナウイルス禍によって中止や規模縮小に追い込まれていたキャンプを再開させようとする動きが始まっていること。しかし、今年は日帰りや自教会での宿泊で行うか、地区で開催するデイキャンプに合流するところが多かった。今年はまだ取り組めなかったところも、来年に向けては実施したいとの回答が大半を占めた。一方では、キャンプに限らず日常的な教会学校の活動についての問題や課題も明らかになった。

今年、教会キャンプを実施するかどうかを聞いたところ、実施する小教区は8つあった。実施しないと回答した11小教区のうち、2小教区は岸和田地区で開催されるデイキャンプに合流することなので、まったく実施しないのは9小教区であり、半数近くの小教区で何らかの形でキャンプを実施することだった。

プの日程は、日帰りが5小教区(地区に参加を含む)、自教会での宿泊が3であり、近場で短い期間との傾向が明らかになった。出かけて行き2泊以上の宿泊で実施する小教区は、1小教区にとどまった。

コロナ以前のキャンプについての質問に、15小教区が宿泊を伴うキャンプを実施していたと回答している(ずいぶん前に行っていたが、近年は取りやめたところを含む)。コロナによる行動制限が緩和されたものの、今年については、キャンプの規模縮小傾向は明らかだ。

来年はどうしたいかどの質問には、12小教区が開催を希望し、宿泊を伴うなど規模の拡大を目指しているところもある。教会キャンプの本格的再開は、来年以降になる見通しだ。

今年のキャンプの内容を聞いてみると、ミサ、パーベキュー、川(水)遊びなど人気のメニューが並び、

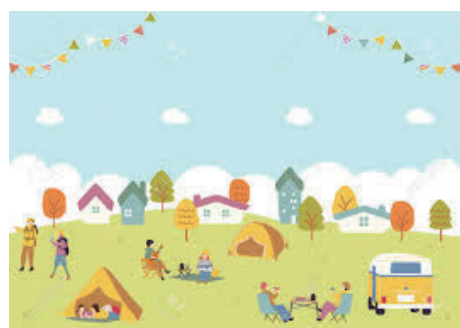
短くても子どもたち楽しんでもらおうと計画していることが分かる。この機会に保護者間の交流も図りたいと答えた小教区もあった。

コロナ対策についても、ほとんどの小教区で、手洗い、除菌など感染対策を継続すること。

「子どもたちの希望をかなえたい」とキャンプの復活に向けて意欲を示す意見の一方、教会学校やキャンプの運営に向けて懸念を示す意見もみられた。

コロナ禍の影響で教会学校をようやく再開できたこともあり、「子どもたちが教会に来なくなった」ことから、「子どもたちにミサに来てもらう段階で、キャンプなどの行事を開催するのはまだまだ」先になるとの指摘も複数あった。

また、「保護者メンバーで対応していますが、リーダー役の時間的都合や学校行事との調整で、キャンプをはじめとする教会行事全般の開催が難しくなっている」などリーダー側の体制が整わないことも課題になっている。さらに、感染症対策や熱中症対策も重荷



になっている。アンケートから、教会学校の運営やキャンプの実施に向けて、多くの課題があり、解決に苦しんでいる小教区が多いことが明らかになってきた。

【追記】

教会学校の運営についての課題や問題について、解決に向けて現在取り組んでいること、その他子どもたちを巡ることについて、皆さまの意見を募集しています。

メールアドレス
jiho@osaka.catholic.jp
FAX
06-6946-13224



甲子園教会 献堂60周年

甲子園教会は、日本26聖人のひとり聖フランシスコ吉がこの地で自ら希望して捕縛されたという由縁で「聖フランシスコ吉」を守護聖人とし1963年7月28日に創立され、今年で60周年を迎えた。

前田万葉大司教の司式で7月23日に記念ミサが行われた。ミサの初めに「教会の還暦祝ふ甲子園」、説教の中では「受堅者よ共に憐れむ 祖父母の日」の句を詠まれた。

ミサの中で若い受堅者6人の堅信式もあり、大司教から、本日は「祖父母と高齢者のための世界祈願の日」でもあり、これを踏まえて若者世代と高齢者がひとつになつてキリストの「信仰、希望、愛」を証し、還暦後も教会を盛り上げていくようにと祝福と励ましをいただいた。

【主催者の感想】

今年の4月にアマド・カバレロ神父様が甲子園教会の主任司祭に着任され、喜びの心で60周年をむかえることができた。6年前、主任司祭の松本武三神父様が突然帰天され、心細い思いをいたしました。ご多忙な中、夙川教会の神父様方、芦屋教会

の神父様が甲子園教会の主任司祭も兼任し導いてくださったことに、本当に感謝しています。守護聖人聖フランシスコ吉に見守られ、歴史・感謝・喜びを心に、甲子園教会と向き合い、祝福し、これからも甲子園教会を大切にしていきたいです。

甲子園教会では2023年7月23日(2024年7月21日)まで「聖年」として、主日には「聖フランシスコの祈り」を唱える。守護聖人と教会の歴史から信仰を学ぶため、催し、学習会を計画している。

【当日の様子】

ミサ後、聖堂で大司教様を囲んで参加信徒全員で記念写真撮影が行われた。その後、信徒館ホールに移動してティーパーティが開かれた。引越してご無沙汰の信徒の方、愛徳姉妹会のシスター6人もお祝いに来られた。

(文 甲子園教会広報担当)

性虐待被害者のための 祈りとつぐないの日

昨今のさまざまな問題を通して「神からいただいたいのち」をもう一度深く味わうために。人を傷つけ、いのちの輝きを奪うことのないように——謙虚な気持ちで学び、傷つき苦しむ人のいのちが再び輝きを放つよう、定期的に祈りの時間を持つことによって連帯できますように願っています。

どなたさまも自由にご参加ください。

10/7 (土) 14:00

◆ テゼによる祈りの集い

場所: サクラファミリア 3F 聖堂とホワイエ

15:00

◆ 参加者の自由な分かち合い

16:00 終了



主催 ハラスメント対応委員会 (※名称変更)
問合せ 教区本部事務局 ☎ 06-6941-9700

司祭紹介

大阪教区にいられた司祭を紹介します

アマド・カバレロIII神父



出身地 フィリピン ケソン市
生年月日 1966年11月2日
所属 聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ 宣教会
司牧担当 甲子園教会(主任)

ホセ・ラモン・ルビオ・モルデンハウエル神父



出身地 スペイン
生年月日 1980年11月9日
所属 スペイン マドリド教区
司牧担当 玉造教会(日本語研修)

ジョンソン 鄭海成神父

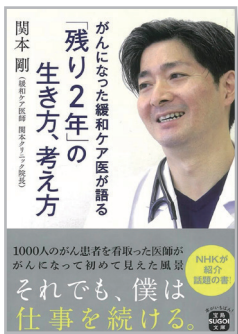


出身地 韓国
生年月日 1984年2月21日
所属 韓国 ソウル教区
司牧担当 堺教会(日本語研修)

シンソンギル 申城吉神父



出身地 韓国(ソウル)
生年月日 1969年12月19日
所属 フランシスコ会
司牧担当 大阪生野教会(主任)



英隆一朗神父から
この一冊

司牧者がリレー形式で若者たちにぜひ読んでほしい書籍を紹介し、青年たちの読書感想文を掲載する連載。今回は、英隆一朗神父(六甲教会)が担当。



「がんになった緩和ケア医が語る『残り2年』の生き方、考え方」(関本剛著、宝島社、2020年9月発行、税込 1,320円)

私が昨年春、六甲教会に赴任して最初の仕事で、この本の著者の通夜・葬儀であった。彼は学生時代、教会活動や神戸の震災復興ボランティアに精力的にかかわっていた。その彼が医者となり、ターミナルケアにかかわっていたところ、がんの告知を受けた。余命2年の時に執筆したのが本書である。自己の死を受けとめ、最後まで仕事と家族を大切に生きる生き方が淡々と記されている。

死期が近い患者で、とてもわがままな人がいた。彼が、自分も余命2年だと伝えると、わがままな患者の生き方が劇的に変わったというところは、泣けてきた。

彼の死を受けとめる態度は多くの人に励ましと力を与えている。

私たちがどう生きるかを考えるとき、どのように死んでいくかをセットで考えるべきでなからうか。自分の生を見つめ直すために、本書を通して、自分の死を一度見つめ直してほしいと思う。

彼の葬儀では、事前収録したビデオメッセージが流された。現在でも、YouTubeで視聴できる。関連動画もたくさんアップされているので、こちらだけでも見てほしい。

ちなみに、私の赴任1年後、彼の妻と息子に洗礼を授けることになった。いのちのつながりを今でも強く感じている。

次回は、ジャンマリー・カゼンガ神父(堺ブロック)です。



YouTube

関本 剛さんのお別れの挨拶
◀ここから読み取りできます



ラジオ 信仰の時間

正しい軌

7月担当(7月9日放送分)



ジョヴァンニ・デア神父 (尼崎教会)

子どもたちは、しばしば大人たちに「なぜ?」と問いかけて困らせることがあります。ハイデガーという有名な哲学者は、自分の弟子たちにこう言いました。「哲学も宗教も進歩したいなら、子どもに質問されなさい。いつも答えが出るとは限らないが、必ず真理に近づくことができる」。このハイデガーの言葉は、イエス・キリストの「神は幼い者に真理を解き明かす」と言った通りです。子どもの質問は素朴で奥が深いです。実は、大人たちが「答えを探すのは無駄だ」と、考えることもやめてしまった問いもあるかもしれません。大人は社会の事柄を深刻に考えることに気をとられています。しかし、本当に大人が考える問いは、子どもの質問よりも深刻でしょうか。

子どもが問いかける一つの例として、「謙虚さとは何か」という難しい質問がありました。謙虚になるということは、自分を卑下すること

でも、自分を消し去ることで、姿を消すことなく、自分の本当の姿を認識することです。謙虚とは創世記に書いてある通り「あなたは土からとられたのだから、あなたは、ちりに帰る」。を忘れないことです。このちりである人間に神様はいのちを与えられました。人間はちりに過ぎないものです。この点を理解するために、一つの例話を挙げます。

むかし、ある神父は神様によく仕えていました。この世で自分くらい神様を敬愛している者はいないと自負するほどでした。神様は彼の心を見て、こう言われた。「神父よ、川沿いのあの町へ行きなさい。そこで私を信奉している1人の男に会うだろう。彼としばらく暮らさなさい。多くを学ぶだろう」。

神父が会った男は農夫でした。彼は朝早く起きて、一度神様の名を唱えました。それからスキをかついで出かけ、一日中畑で働きます。そして夜になり、床につく前にもう一度、彼は神様の名を唱えました。彼を見た神父は思った。「この田舎者がなぜ神の信奉者なのだ。ただ一日中、畑仕事に没頭していただけないか」。そこで神様は神父に言われた。「器に縁までミルクを満たし、それを持って町をひとめぐりしなさい。一滴もこぼさずにもどってきなさい」。

神父は神様の言われた通りにしました。彼が帰ってから神様は訪ねられた。「町を一巡りしている間、幾度私のことを思い起こしたか」。彼は答えた。「神様、一度も。一滴もこぼさないよう注意をしていたのですから、一度も……」。神様は言われた。「こぼさないように注意を器に集中して、お前は私のことをまったく忘れてしまった。ところがあの農夫はどうだ。家族を養う責任

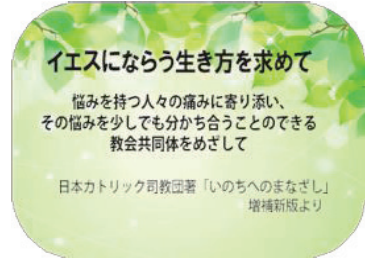
を背負いながら、毎日、日に二度、私を思い起こしている」。

この例え話は、神様が謙虚さを強くすすめていることをあらわしています。神様はよく勉強した人の頭の中で話しをするのではなく、清い人の心でよく話しをします。神様は勉強して地位や名誉を得てえらくなった人にだけ話をすることはありません。社会の地位はバラバラでも、私たちの心は同じレベルで、みんな平等です。神様は私たちの心を見て話します。

この例え話には、もう一つ大切なポイントがあります。私たちはみんな人生の中で、それぞれ重荷を担っています。だからイエス・キリストは「わたしは柔和で謙遜な者だから、私の轆を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。私の轆は負いやすく、私の荷は軽いからである」と言われました。

轆がなければ畑を正しく耕すことができないように、道徳的な基準がなければ正しく生きることができないからです。人生において、まっすぐ進むためには、道徳的な轆が必要です。時どき重荷になりますが、持って行けば人生に豊かさも与えられます。今日もイエス・キリストから学び、私たちが轆を負い謙虚でいることができるように努力して過ごしましょう。

毎週日曜日 5:50~6:00AM 放送
9月担当: エリック・パウチスタ・デグスマン神父
ABC ラジオ (朝日放送) AM1008/ FM93.3
スマホアプリの radiko でも聴けます。



戦争によるトラウマと 私たちの姿勢

シナピス運営委員
嶋田 至しまだ いたる



2021年8月
カブールにて

夏になると、日中戦争やアジア・太平洋戦争の話題がさまざまなメディアで取り上げられます。近年は、戦争体験者の心理的な面に焦点が当てられる内容が多くなってきたようです。「コロナ禍の間には、「戦争と文化的トラウマ」と題されたオンラインシンポジウムも開かれ、私も視聴しました。

阪神・淡路大震災以来、災害や犯罪にともなうトラウマが話題になり、心のケアの大切さが注目されています。

トラウマという言葉は、ギリシア語で「傷」を意味します。心的外傷と訳されますが、まさに心に傷を負うことだと言えるでしょう。

私たちの心は自動的に自身を守るようにできていて、トラウマにつながる体験は意識の外に隠そうとします。

しかし、トラウマの記憶が完全に無くなるわけではありませぬ。心の傷は知らないうちに、感情を麻痺させたり、怒りや不安の感情を引き起こしたりすることがあります。

また、新たな体験がきっかけとなって、長らく忘れていた記憶が引き出され、フラッシュバックすることがあります。これが続く状態をPTSD(心的外傷後ストレス障害)と言います。

第二次世界大戦では、数多くの人たちが人を殺めたり、自らも傷ついたり、家族や仲間を亡

くしたりして心に傷を負いま

した。各国で戦争経験者がPTSDを発症するケースが報告されています。PTSDはいっ発症するかわかりません。上記のシンポジウムでは、沖縄戦を体験した人が戦後五十年たつてからPTSDを発症した事例が報告されていきました。

また、トラウマは次世代に伝わることも明らかになっていきます。世代間トラウマと呼ばれるものです。たとえば、戦争体験者が不安症や依存症、うつなどのPTSDを抱えていることが、彼らの子どもの心身に何らかの影響をもたらすことです。トラウマに起因するDV(ドメスティック・バイオレンス)や「男は強くなければならない」といった非合理的信念が、子どもたちの人格形成に好ましくからぬ影響を与えることもあるのだと思います。

私たちは、戦争で人々がどんな体験をしたのかを、もう少し丁寧に知ることが必要です。

そして、その体験が当事者たちに、あるいは世代を超えて私たちに、どんな影響を与えているかを考えてみることも大切です。それは、戦争が私たちに長期間にわたつてどれほど苦しめるのかを、再確認することにつながるはずで

また、トラウマに注目することとは、今も続く世界各地の争いの犠牲者たちにも、外からは窺い知れない「心の傷」のあることに注意を向けることにつながることでしよう。私たちはもつと、他者に寄り添う姿勢を育むことができるはずで

*『戦争と文化的トラウマ 日本における第二次世界大戦の長期的影響』(竹島正、他、日本評論社)を参考にしました。
*トラウマや世代間トラウマの影響が大きいと感じられたら、トラウマケアの専門家に相談されることをお勧めします。

国会での審議を通じて浮上した入管における問題

- ① 「難民をほとんど見つけられない」という一人の参与員の発言が、3回目以降の申請者の送還の根拠とされましたが、数人で公平な審理とは言えない数の審査をしている実態が明らかになりました。
- ② 入管庁は、法案の成立に向けて医療体制を整備し、常勤医師の配置を説明しましたが、大阪入管で医師が飲酒して診療し、常勤の医師が不在という事実は公表されませんでした。

来年の施行までに、どこまで見直しがされるか不明ですが、難民の保護において望まれることは、国際水準に基づく難民の保護と、収容のあり方の見直しです。

国境(国益)を管理する入管庁が、難民認定(人権)に関わるという仕組みに問題があります。最終的な保護の判断は、独立性を持つ機関に委ねること、また入管施設での拘束は限定的に、期間も限定し、その判断も裁判所のような独立した機関で行われるべきです。

難民保護を目的とした独立した機関を設けることで、国際的な人権基準を守り、人権を優先し、国際社会から信頼される国となることが望まれます。誰も取り残さない、多様性のある共生社会の実現に向けて、何ができるか、私たち自身も問われています。



ショッピングモールで
募金活動をする高校生

どう変わる?

入管法(出入国管理および難民認定法)

シナピス運営委員 西口 信幸にしぐち のぶき

「出入国管理および難民認定法」(入管法)の改正案が6月9日、成立しました。この法案をめぐっては、野党や市民団体はじめ国際社会からも人権上の問題点が指摘される中での強行採決でした。

改正入管法の主な内容

- ① 難民認定の申請中は、これまで送還が認められていませんでしたが、3回目以降の申請者については「相当な理由」を示さなければ本国への送還が可能になります。
- ② 難民条約の「難民」には該当しないが、紛争などから逃れて来た人を「補完的保護」の対象者として受け入れます。
- ③ 送還を妨害した人などに対する罰則も設けられます。
- ④ 仮放免制度に替わり、「監理人」と呼ばれる入管庁が認める団体や弁護士の監督のもとで生活する「監理措置」が新設され、「監理人」に責任が課せられることとなります。

難民認定率が極端に低い日本で、難民申請中の人を送還すれば多くの人が迫害を受ける恐れがあると国連機関や専門家は難民条約違反だと指摘しており、避難民を「補完的保護」対象とすることは、国際的な潮流を踏まえない、誤った見方とされています。「監理措置」についても監理人への理解もいまま、実現性が疑問視されています。



新年を祝い、踊るアフガン人の女性たち



聞かせてください 神さまと出会った時のこと 〜エマオへの道で〜

第5回 大久保 武 神父
(姫路西ブロック)

長崎から就職で明石に出てきた父が、母と出会った。明石教会で受洗。初聖体に日曜学校。勉強が終わると、静かな聖堂を通り抜け、聖書百週間に参加していた母を呼びに行った。そして、堅信。有馬志朗神父から聞いた「愛」の話は、勉強後におごってもらったラーメンの味とともに記憶に残っている。クリスマスには、家族で教会に行った。子ども時代、「神様と出会った」という実感はなかったが、

大人になり、小さなころの体験の意味を知った。高校生のとき、母が亡くなる。お母さんは神様のもとの行ったのだと、素直に思えた。その後、兄が日曜学校を手伝うようになり、自分もリーダーとなった。教会に復帰し、神様と再会した。幼いときから、いつも教会に連れていってくれた母が、私の信仰の土台を築いてくれていた気がする。20代、フスト・セグラ神父の「祈りと生活の作業

とはどんな存在なのかと考えるようになり、神様は「信じる人を自由にしてくれる存在」だということに気づいた。どんな選び方をしても、何があっても、肩の力を抜いた状態で日々を過ごさせてくれる、それが神様だと。

当時、プログラマーとして働いていたが、教会と関わる仕事がしたいと考え始めた。教区の神父様に相談すると、「今どき、神父以外に教会と関わる仕事はないよ」と。しかし、神父なんて、気軽になっていないものじゃないし、誰でもなれるものでもない。しばらく考えた。

私は、石原広吉神父に大きな影響を受けた。こんなに優しい人はいない。私の召命について「10年くらいゆっくり考えたらいい」と言っておられたが、しばらくして、石原神父が亡くなられたとメッセージが届いた。その瞬間、「自分の順番が回ってきた」と思った。神父様の見せてくれた優しさを自分が受け継ぐ、そんな気持ちだったのかも。不思議な確信が沸きあがった。

場」という信仰講座に参加する。そこで初めて、生活の支えとなる信仰の感覚を知った。神様

自身に直面させられた。それでも、一人で思い詰めることなく、最後には神様がいいようにしてくださるだろうと考えることができた。司祭をしながら、神様のすばらしさを感じる。「この人は、いま神様と出会っているんだ」と感じるのは、自分が司祭になつたから。それを伝える一人と出合い、話し、励ましていくことが宣教なのだと思う。

自分の分を受け取って帰りたい。わたしはこの最後のものにも、あなたと同じように支払ってやりたいのだ。
(マタイ 20・14)

【6月のお話より抜粋。
サクラファミリアで偶数月に開催中】

【ハインリッヒ中野正勝神父様 叙階金祝の会】

6月17日(土)11時から大阪カテドラル聖マリア大聖堂でハインリッヒ中野正勝神父様の金祝のミサに120人以上の方が集まり行われた。お祝い会には前田万葉枢機卿様が参加され、二人でケーキカットもしていただいた。みんなで「次はダイヤモンド祝でお会いしましょう」と言って閉会した。

カトリック墓地 納骨堂・納骨所 使用者募集

大阪教区の信者の方のみがお申込みいただけます。詳細は資料をお送りさせていただきます。ほか、インターネットでもご覧いただけます。

資料請求やお問い合わせは
教区本部事務局
総務課 管理部門
☎ 06-6941-9705



ひとりでも悩まないで 〜私たちに聴かせてください〜 カトリック大阪大司教区 ハラスメント相談窓口

※委員会はハラスメント全般を視野に入れることになりました。そのため、名称変更します。

電話番号:06-6941-9718

相談窓口受付時間

月・火・金曜日(祝日を除く)
午前10時〜午後4時

あなたの悩みを親身になって受け止めます。秘密は必ず守られます。

「生きる」―難民移住者

ともに歩む

私が関わる海外出身の人びとの中には、迫害の国から逃れる難民だけではなく、どうしても本国に戻れない事情を持つ人も含まれます。ある韓国人の母がまさにそうでした。



韓国は経済面でも文化芸術面でも活気のある社会です。日韓で人の往来も活発な今の時代に、その母は在留許可を得る見込みがないまま大阪の片隅で生きていました。私たちは裁判などの支援をしてきましたが、万策尽きてしまい、支援を巡ってたびたび話し合いがもたれました。韓国の教

育事情を考えると、このものためにはできるだけ早く本国の学校に通う方が入管にできる支援があるかもしれない。その日、上官と母親が何を話したかは書きませんが、母親は「もう死にたかった」と言

住機関(IOM)を紹介し、母子はIOMを通して安全な渡航と帰国直後の生活援助を受けることになりました。

入管の担当官、IOMの職員、各自がそれぞれの役割にしかできない力を発揮し、立場の弱い母子に根気よく接し解決に導いてくれました。清々しい笑顔とともに出発ゲートに向けて彼女たちがともに歩む姿を称えて、私は手を振り続けました。
(文 シナピス事務局
ピスカルド篤子)

教区の皆様

カトリック大阪大司教区
事務局長 崔周永

大阪高松大司教区設立式と

トマス・アクィナス前田万葉新大司教着座式のお知らせ

主の平和

去る8月15日に教皇フランシスコにより設立された大阪高松大司教区の設立式とトマス・アクィナス前田万葉新大司教着座式の日時が決まりましたのでお知らせいたします。日時のみになりますが、ご予約に入れていただきたくお知らせいたします。当日は、多くの方が来られることが予想されます。カテドラルの駐車場は利用できませんので公共交通機関を利用してお越しください。式の詳細等は、あらためてご案内いたします。

記

日時 2023年10月9日(月・スポーツの日) 13時より
場所 大阪カテドラル聖マリア大聖堂

なお、設立される大阪高松大司教区の司教座聖堂は大阪カテドラル聖マリア大聖堂に、事務局は現大阪大司教区事務局になります。ただし、新宗教法人としての開始日は、今後関係省庁と協議の上進めていく予定ですので、改めてお知らせいたします。それまでは両教区(宗教法人)がこれまで通り業務を継続いたします。

ヨゼフ・アバイヤ司教 (福岡教区) 講演会

日時: 2023年9月30日(土)
13時30分~16時
場所: サクラファミリア 聖堂 (3階)
大阪市北区豊崎3-12-8
TEL 06-6225-8871
テーマ: 「シノドス 共に歩むために」
〜賜物を活かす合う共同体〜
費用: 無料
申込: 不要
主催 大阪教区使徒職養成委員
TEL 06-6941-9700



来、見なさい



ヨハネ 1・46

※詳細は各主催者へ直接お問い合わせください。

教区委員会主催

信仰養成連続講座◆カテキズムの第2編「キリスト教の神秘を祝う」

日時 9/28(木)18:30~20:00

講師 酒井俊弘補佐司教

場所 サクラ ファミリア /YouTube配信あり

問 ☎06-6941-9700

主催 使徒職養成委員会

サクラ ファミリア主催

Together~ともに歩もう 神の民の集い◆シノダのために祈り、テゼの歌を歌い、そして黙想します

日時 9/30(土)16:30~17:30

パチカンで開催されるエキュメニカルな祈りの集いに連帯して祈ります

HP <https://together2023.net/>

間かせてください 神さまと出会った時のこと~エマオへの道で~◆大阪教区で働く司祭・修道者ご自身の体験をさく

日時 10/12(木)18:00~19:30

(夜の部)・10/13(金)10:30~12:00(昼の部)

おはなし 清川泰司神父(高槻教会)

コレーン神父と学ぶ聖書◆「使徒パウロのフィリピの教会への手紙」

日時 第2(月)13:30~15:00

(9~12月開講)

参加費 ¥500

和田幹男神父◆聖書研究講座『主のしもべイエス』

日時 第2(水)10:30~12:00

和田幹男神父◆新約聖書ギリシア語(初級)

日時 第2・4(月)17:00~18:30

「新生の明日を求めて」読書会◆大阪教区のシノダリティ(ともに歩む)の原点を確認しよう

日時 毎週(月)(第2は休み)14:00~15:30

聖書通読会◆聖書のダイナミックな流れが感じられます

日時 毎週(木)10:00~11:30

「YOUCAT(青年向けカテキズム)」勉強会◆老いも若きも、キリスト教を理解しよう

日時 毎週(金)19:00~20:00

担当 松浦信行神父

祈りのよる◆灯りをかこみ、ともに祈る静かな時間を

日時 毎月17日 19:00~19:30

問 サクラ ファミリア ☎06-6225-8871

✉ f.sacra@osaka.catholic.jp

結婚準備講座

夙川教会

日時 9/3(日)~9/24(日)

4回 14:00~15:30

参加費 ¥5,000(2名)
問 ☎0798-22-1649

六甲教会
日時 9/3(日)~9/24(日)
4回 14:00~16:00

参加費 ¥5,000(2名)
問 ☎078-851-2846

✉ renraku@rokko-catholic.jp
※事前要問合せ(年2回)

黙想会

宝塚黙想の家
◆日帰り黙想会

日時 9/28(木)・9/29(金)

指導 梁野治雄神父(9/28)
山内十束神父(9/29)

参加費 ¥3,500

◆聖地エルサレムを学ぶ

日時 9/7(木)10:00~12:00

指導 笹田六合豊修道士

参加費 ¥1,000

◆カトリック教会のカテキズム

日時 第1・3(水)10:00~12:00

指導 梁野治雄神父

参加費 ¥1,000

◆祈りを深めるための聖書の基本

日時 第1・3(水)10:00~12:00

指導 山内十束神父

参加費 ¥1,000

問 宝塚黙想の家 ☎0797-84-3111

講座・研修会

女子御受難修道会◆友の会

日時 9/27(水)10:00~16:00

指導 志村武神父(カルメル会)
問 女子御受難会 ☎0797-84-7863 ☎0797-84-7864

9月司教予定

(下記「行事等日程」以外)

・9/14~16 秋田の聖母の日巡礼(+S)

・9/17 洲本教会訪問(+S)

・9/18 広島教区 100周年記念行事(+M)

・9/25~26 管区司教会議(+M・+S)

+M=前田万葉大司教
+S=酒井俊弘補佐司教

日時 9/18(月・祝)14:00~17:00
場所 サクラ ファミリア
主催 大阪教会管区部差別人権活動センター
問 ☎075-366-6609
✉ bukatu@kyoto.catholic.jp

講座 本田哲郎神父◆小さくされた人々のための福音

日時 第3(金)10:00

場所 神戸学生青年センター
参加費 ¥1,000

主催 神戸国際支縁機構
問 岩村 ☎070-5045-7127

すべての心のケアに携わる人へ 全人力を磨くとは?◆Sr.高木慶子との対談会(ZOOM配信)

日時 9/5(火)から10/10(火)18:30~20:00(全5回)

受講料 ¥10,000(一般)

申込・問 ✉ info@zenjinryoku.com
☎050-3131-0636

主催 全人力を磨く研究所(理事長 高木慶子)

後援 カトリック大阪大司教区・上智大学グリーンケア研究所

集い

マリッジエンカウンターウィークエンド◆婚姻の秘跡を生き生きたと生きる

対象 夫婦・司祭・修道者

日時 10/7(土)~10/9(月・祝)

場所 聖ヨハネ病院修道会(神戸)

参加費 自由献金

申込 平尾まで

問 ☎078-991-5220

シナピス主催◆オンライン祈りの集い~世界平和のために祈ろう~

日時 9月以降中止します

大阪JOC◆働き方や生き方について現状から共に考える15~35歳までの若者の集い

日時 第4(土)14:00~16:00

場所 大阪YCWセンター(またはZoom)

問 レネ神父・水元 ☎072-232-8063
✉ osakaycw@gmail.com

HP <http://www.ycw.jp/>
要約筆記グループ「エフファタ!」練習会◆教区ミサに要約筆記(文字表示)をつけるボランティア
日時 9月はお休み

精神・発達症(障害)者自助グループ◆オリーブの集い

守秘義務と分かち合い いつ来てもウェルカム 当日キャンセルOK

日時 第3(日)14:00~16:00

場所 姫里集会所
参加費 ¥100

クリスマス用積立カンパ
申込 吉川まで

問 ☎078-583-2525
✉ yassan.yoshikawa@nifty.com

カ障連大阪フレンドリー◆点字部の勉強会

対象 パソコン点字に関心のある方、視覚障がい者の情報共有に関心のある方

日時 奇数月・第2(火)13:30~15:00

場所 姫里集会所
申込 笠松まで

問 ☎090-5661-4324
☎072-722-0271

✉ kasamatsu-yukisan@iris.eonet.ne.jp

マザー・テレサ共労者の集い◆大阪梅田教会

日時 第1(土)14:00

問 高塚 ☎06-6921-0693

◆加古川教会
日時 第4(水)13:00~15:00

問 佐藤 ☎079-435-1157

手話に興味をお持ちの方へ◆聞こえない人も聞こえる人もボランティア会の見学にいらしてください

内容 聖書の学び・教区活動の手話通訳者派遣

※手話講習会ではありません
日時 第1・3・5(水)10:00~14:00

場所 姫里集会所

主催 大阪教区聴覚障がい者ボランティア会

問 障がい者委員会
dis@osaka.catholic.jp

感謝の祭儀を祝う
新しい「ミサの式次第」解説
日本カトリック典礼委員会・編集
発行日2023/8/6・本体価格(税込583円)
注文問合せ先: 中央協議会出版部
電話 (03)-5632-4429
FAX (03)-5632-4456
QRコード読み取り▶

感謝の祭儀を祝う 一新しい「ミサの式次第」解説
新しい「ミサの式次第」日本カトリック典礼委員会委員による変更箇所により深い理解のためのテキストとして再構成。さらに、いくつかの学術的な質問が寄せられた「あわれみの賛歌」から「いつくしみの賛歌」への変更を書下ろしの解説を補遺として収録。 参照: カトリック中央協議会

9月司教予定 (下記「行事等日程」以外)
・9/14~16 秋田の聖母の日巡礼(+S)
・9/17 洲本教会訪問(+S)
・9/18 広島教区 100周年記念行事(+M)
・9/25~26 管区司教会議(+M・+S)
+M=前田万葉大司教
+S=酒井俊弘補佐司教

行事等日程	
9月	
1 木	すべてのいのちを守るための月間(~10/4迄)
3 日	被造物を大切にす世界祈願日
7 木	[常任司教委員会]
13 水	10時 顧問会
14 木	十字架称賛
23 土	14時 病者・障がい者とともに歩むミサ(カテドラル)
24 日	世界難民移住移動者の日(献金)
27 水	教区健康の日(教区月修)
10月	
5 木	[常任司教委員会]
9 月	大阪高松大司教区設立式・着座式
11 水	10時 顧問会 13時半 第200回 司祭評議会
15 日	INTERNATIONAL DAY

【岬教会】※18時(第1前晚)
▽(日)8時半(第2・3・4・5)
☆トイレ(バリアフリー)・車イス等スロープ設置

案内・報告 主日ミサ時間変更

編集後記
知り合いの花屋さんの展示会に行きました。椅子に座って花と絵を愛でることができました。身体にフィットする椅子がありました。何時間でも座っていたくなるようなすばらしさ。気に入りました。店主に聞くと、1950年に作り始められたとのこと、かの暗殺されたケネディ大統領も対談の時腰かけたことがあったそうです。購入しようかと思いましたが、一脚68万円で2年3年待ちと聞き、あきらめました。製作にかかった職人は、生涯2000種類の椅子を作ったそうですが、納得できたのはこのザ・チエアーを含めて3種類だけでした。一流の職人でもこれなら、私の説教も司祭生活で一つくらい輝けばOK。気が楽になりました。
(広報委員会 川柳裕明)

【お詫びと訂正】
本紙8月号記載誤りがありました。
6面【案内・報告】
「2023年度 大阪修道女連盟 役員交代」
(誤)【会計】→(正)【マック・シナピス】
Srミルカ・ノニニ(マリア布教修道女会)
お詫びし訂正します。(広報委員会)